

SPECIAL★REPORT レンタル・サーバ

性能、安全性、価格、すべてに優れた レンタル・サーバの決定版

エーモードの『A-modeセキュアサーバ』

レンタル・サーバやホスティング・サービスの市場規模は、拡大の一途をたどっている。

しかしその一方で、利用者からは「期待した性能が得られない」「安全性に不安がある」といった声が聞かれるケースも多い。

エーモードが提供するレンタル・サーバ「A-modeセキュアサーバ」は、

そうしたパフォーマンスの不満やセキュリティの不安を解決すべく登場したサービスだ。

高速かつ安全なレンタル・サーバがどのように実現されているのか、「A-modeセキュアサーバ」の特徴をレポートする。

レンタル・サーバの要件

レンタル・サーバ／ホスティング・サービスのプロバイダーを選択する際には、提供されるディスクの容量、CGIやデータベースの使用可否、そして誰もが気になるコストを検討することになるだろう。しかし、そうした点を検討したうえでサービスを選択し、使い始めてみたものの「期待したようなパフォーマンスが得られない」というケースも少なくない。

また、2005年には「価格.com」などの大手ECサイトが不正アクセスの被害に遭ったというニュースが大きく取り上げられた。そのため、「レンタル・サーバやホスティング・サービスのセキュリティは大丈夫か」と

いう不安を抱いたユーザーも多いようだ。

エーモードのレンタル・サーバ「A-modeセキュアサーバ」は、そうしたパフォーマンスの不満やセキュリティの不安をすべて解決すべく登場したサービスだ。同社の取締役 高橋修氏は、同サービスの提供に至った理由を次のように説明する。

「私自身、業務でレンタル・サーバを利用していたことがあるのですが、パフォーマンス、安全性、コストのバランスが取れた納得できるサービスが見つかりませんでした。そこで、ユーザーにとって文句の付けようがないサービスを提供しようと考えたのです」

ネットワーク帯域を保証する ギャラクシー型サービス

多くのレンタル・サーバ／ホスティング・サービスの基本プランでは、複数のユーザーが一定のネットワーク帯域を共有するベスト・エフォートと呼ばれるタイプのサービスが提供される。この場合、あるユーザーのサーバが多くの帯域を消費していると、他のユーザーのサーバではクライアントへのレスポンスが低下してしまう。これに対して「A-modeセキュアサーバ」は、標準で一定の帯域幅が保証される「ギャラクシー」と呼ばれるタイプのサービスとなっている。この

場合、自分が使用するネットワーク帯域は、他人が使用しているかどうかにかかわらず常に確保される。

また、「A-modeセキュアサーバ」を提供するシステムは、超高速キャリアであるアジア・ネットコム※1のコア・ルータにギガビット・ネットワークで接続され、わずか2ホップで(2つのルータを経由して)インターネット・バックボーンにつながっている。これなら、インターネット・バックボーンまでの通信トラフィックの渋滞を心配する必要はない。

また、契約サーバは24時間監視される。そのため、ユーザーがサーバ・システムのインフラ部分を管理する必要はない。ただし、ユーザーには契約サーバのパフォーマンスを適宜チェックできるGUIツールが提供される。これは、「いつネットワークの通信速度をチェックしてもらっても問題はない」というエーモードの自信の表れと言えよう。

※1 アジア・ネットコム

アジアの都市間にインターネット・バックボーンとして独自の光ファイバ・ネットワークを敷設／運営している通信事業者。香港に本社を置いている。URL: <http://www.asianetcom.com>

万全のセキュリティ対策と リーズナブルな価格

ユーザーがレンタル・サーバ／ホスティング・サービスを選択する際、コストが検討

写真1:エーモード取締役 高橋修氏は「私自身がユーザーの視点で見て、性能、安全性、価格の面での要求水準を満たすのが“A-modeセキュアサーバ”のサービスです」と語る



されないことはまずない。多くのプロバイダーは、基本的なサービスだけを低価格でパッケージ化することで、ユーザーにコスト面のアピールを行っている。そうした基本サービスには、セキュリティ対策が含まれておらずオプションとなっているケースが多い。

これに対してエーモードは、ファイアウォール、アンチウイルス・システム、IDS（侵入検知システム）といったセキュリティ機能を、すべて標準で提供する（図1）。この構成で月額3万9,800円（税抜き）からというリーズナブルな価格を実現している。

ファイアウォールは今や必須の機能と言えるが、使用する製品によってはパフォーマンスが犠牲になることもある。「A-modeセキュアサーバ」では、「FortiGateシリーズ」「SonicWallシリーズ」「NetScreenシリーズ」などのファイアウォール機能を持つセキュリティ機器から、要求される性能や価格に合ったものを選択できる。例えば、これらの中には、「ファイアウォールのスループットが400Mbps」「40万セッションの同時接続が可能」を誇る製品もある。

さらに、ウイルス対策には、PC用アンチウイルス・ソフトとしても著名で、ゲートウェイ用アンチウイルス・ソフトとしても数多くの導入実績をもつトレンドマイクロの製品

が使用されている。高橋氏は「上場企業が構築するようなシステムと同レベルの品質を確保できるシステム・インフラを使って、レンタル・サーバ／ホスティング・サービスを提供しています」と胸を張る。

なお、エーモードはレッドハットのアドバンスト・ホスティング・パートナーであり、高品質で安定したサービスの提供に向け、レッドハットと共同でシステムの構築／運営を行っている。「A-modeセキュアサーバ」の第一弾OSとしてRed Hat Enterprise Linux ES 3を採用し^{※2}、高品質で安定したシステムの提供を図っているわけだ。

※2 Red Hat Enterprise Linux ES 3を採用
Red Hat Enterprise Linux ES 2.1/4の利用も可能。

情報漏洩賠償責任保険が標準で付帯

一般的なレンタル・サーバ／ホスティング・サービスでは、システムのセキュリティを確保することにとどまり、標準でそれ以上の保障を行うことはまれであろう。しかし、個人情報保護法の施行に伴い、企業では個人情報の扱いを重要視する機運が高まっている。特に、ECサイトのように金銭が絡むサービスを提供している場合、セキュリティ機能に万全を期すだけでは十分だとは言えなくなってきている。そこで、「A-modeセキュアサーバ」では、標準サービスとして「1事業者当たり年間5千万円」の情報漏洩賠償責任保険が付与される^{※3}。それだけでは補償金額が不足だというユーザーには、最大5億円まで補償を拡大できるオプション・サービスも用意されている。

「当社は、レンタル・サーバのシステムを構築する際、ユーザー事業者のニーズに合わせて最適なハードウェア／ソフトウェアを選択し、十分な検証を行います。しかし、どんなシステムであっても“絶対安全”だとは断言できません。そこで、万が一損失を被るような事態が発生したときに備え、保

写真2:左からエーモードの梅沢麻美氏、取締役 高橋修氏、マルチベンダー・エンジニア 笹部慶智氏



険が適用できれば、より多くの事業者が安心して当社のシステムをご利用いただけると考えたのです」（高橋氏）。

※3 情報漏洩賠償責任保険が付与される

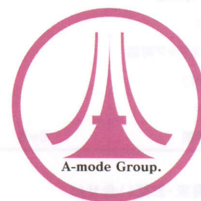
この保険は、他の同業者には見られない独自のサービスで、ユーザーの視点で開発されている。ユーザー事業者が一定の条件を満たせば、保険の契約を別途結ぶ必要はなく、保険が自動的に適用される。

オプション・サービスも充実

「A-modeセキュアサーバ」は、基本的にはサービス・メニューが固定化されたパッケージ・サービス^{※4}だ。ただし、ユーザー事業者は、OSやアプリケーション・サーバ、データベースを選択でき、さらにシステム設定をカスタマイズすることができる。また、RAIDやコールド・スタンバイなどの冗長性を高める仕組みも利用可能となっている。パッケージ・サービスでありながら、さまざまな追加オプションが用意され、ユーザーの要望に応じたシステムを構築できることも「A-modeセキュアサーバ」のメリットだ。

※4 パッケージ・サービス

「A-modeセキュアサーバ」を利用して、他社がASPサービスやレンタル・サーバのOEM販売を行うことも可能。



〈問い合わせ先〉

エーモード

TEL:03-5847-1070

URL: <http://www.a-mode.jp/>

図1:「A-modeセキュアサーバ」の構成例

